



育成だより

第18号

平成15年3月31日

貝塚中学校区
青少年育成委員会

「明るく楽しく、夢集う魅力ある地域環境」

平成14年は多くの問題を抱えて週五日制が実施され一年が経過しました。この間、「学力の低下」青少年による犯罪の増加と凶悪化が社会問題となり、家庭・学校・地域の人々もどう対処すべきか多難を抱いた一年でした。

青少年育成委員会も各部会長を初め委員の協力と、学校・PTA・協力会などと密接な連携のもと、部会活動も予定どおり実施され、貝塚中学校区内では、皆さんに支えられ問題や事犯もなく、順調に事業を遂行することができました。ご支援ありがとうございました。

今後の問題としては、生きる力の不足や、体力の低下などが心配されます。

これからは、ひとりひとりが個性を生かし、明るく楽しく夢を抱



貝塚中学校区
青少年育成委員会会長

関塚 昭男

いた学校生活が送れるような教育、地域環境を推進するために、育成委員会も行政機関、関係団体などと連携をとりながらサポートしてまいりたいと思います。



「いじめのない 花と笑顔と 歌声の響く学校」

を目指して



貝塚中学校 校長

須郷 多達男

本校は、「いじめのない 花と笑顔と歌声の響く学校」をスローガンとして、教育活動を進めてきました。

具体的には、数々の福祉体験活動など、体験を通して生徒の心を耕す活動をおこなってきました。

また、花のボランティアによる学校内外の「花いっぱい運動」も継続しており、美しい花が絶えず咲いている花壇が作られています。

更に、貝塚祭や地域音楽祭・集会・式典等では生徒の歌声が会場に響き、スローガンが着実に具体化され、子ども達の変容を実感しております。

今後も、地域の皆さまの御支援を頂きながら、子ども達が生き生きと楽しく活動し、貝塚中学校で学んで

よかった、この地域に住んでよかったと思うことができるようにと願っています。



学校に誇りを 地域に愛着を



北貝塚小学校 校長

千葉 史朗

「学校に誇りを、地域に愛着を」を教育目標に置き子ども達が主人公の学校作りに励んでおります。

本年度は、創立30周年式典を地域の皆様の御支援により盛会のうちに

雑感



桜木小学校 校長

白鳥 隆幸

早いもので桜木小学校へ着任して、一年になろうとしています。

ご存知のように本校は、二つの青少年育成委員会に属しています。すなわち貝塚中学校区と賀曽利中学校区との一つです。しかし、二つ

終える事ができました。

開校当時の守り神の山桜も子ども達の成長をにこやかに毎年毎年見守っていた事と思います。

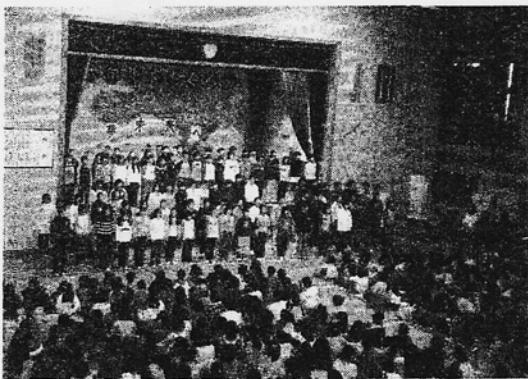
今年の子どもの達の活躍は、5年生の米作り、育成会音楽祭、貝塚祭り、創立30周年式典、ふれあいコンサート。

一年間を通して、地域に密着した活動があり、子ども達も地域の一員としての自覚が芽生えて来ている様子です。更なる地域の二指導で発展することを願っております。

の育成委員会とも変に張り合う事もなく、それぞれの特色を出しながら機能していることに感心しています。

貝塚中学校区では「事故のない、住みよい環境づくりの推進」を目指して取り組み成果を上げていることについて、校長として感謝にたえません。特に一斉点検パトロールについては、危険場所の指摘はもとより、非行防止に役立っていることは言うまでもない事です。

今後とも子供達の為にお力添えをお願いいたします。



創立三十周年を迎えて

北貝塚小学校教頭 長峯 修二

昭和48年4月5日に開校式が行われ、児童数37名(学級数10)で北貝塚小学校が誕生いたしました。

《桜と貝の校章》の由来

30年前、このあたりは広い山林で、春になると、たくさんの山桜がとて



美しく咲いていました。そこで学校を建てるときにその山桜を残すことになりました。邪魔になる木は移植し、番大きな木は、根まわりを大きくして、そのまま残しました。それが校庭の三本の山桜です。

そして、学校の南側には大きな貝塚が六つも残っていました。校章が三つの貝と桜でデザインされているのは、そういうことからです。

このように地域に根差した学校も、今年度は校舎改修工事が行われ、新しく生まれ変わった感があります。そんな折りに、創立30周年の記念式典・祝賀会が行われ、教育長の飯森幸弘様をはじめ多数の地域の皆様や保護者の方々にお祝いをさせていただきました。

これを機に、開校当時にかかわってこられた皆様や、30年間の歩みの中で、それぞれの立場で慈しみ育ててこられた諸先輩の方々への感謝を申し上げますと共に、これからも「桜貝」の伝統を大切に、新しい北貝塚小学校の発展に尽くしていきたいと思います。

地域ぐるみ
貝塚音楽祭開催

貝塚中学校区青少年育成委員会

副会長

小塚 興作

平成11年度に千葉市教育委員会から「地域ぐるみ教育推進校」の指定を受け、「地域ぐるみ貝塚音楽祭」がスタートしました。今回から貝塚中学校区青少年育成委員会の主催となり、昨年11月16日(土)の午前10時から音楽祭は始まりました。これまでの出演者に加え、貝塚大六天神社囃子連、特別参加の県立茂原高校の生徒による古典舞踊が披露されるなど、まさに地域が一体となって盛り上がり盛会裡にフィナーレを迎えることができました。

今までと変わりに、貝塚中学校区内の小・中学校の児童・生徒諸君や幼稚園の諸先生方と園児の皆さん、そして地域の多くの方々には、陰の力として、ひとかたならぬご協力を頂きましたことに心から感謝申し上げます。



今後もこの「地域ぐるみ貝塚音楽祭」が、地域の皆様と学校を結びつけ、児童・生徒の健全な成長を促す一助となれば大変嬉しく思います。

平成十四年度

各部会活動報告

地域ぐるみ

一斉点検パトロール

環境対策部会

本年度の部会活動は、部会委員との協議で「地域ぐるみ一斉点検パトロール」に協力する事になりました。それは従来の環境対策部会での通学路、公園、危険箇所など似通った実施の内容でもあるためです。7月と12月の地域ぐるみ一斉点検パトロールには、部会委員に連絡を取り参加を呼び掛けました。

部会委員会は、日々各自での地域において充分目を向けるよう話し合い、問題があった場合は全員で対応するようにしましたが、本年度は、これまで異状がなかったと思っています。

部会委員の皆様の活動協力に感謝いたします。

書き初め展

健全育成部会

今年度も、桜木公民館と都賀コミュニティセンターで、書き初め展を行いました。桜木小、北貝塚小、貝塚中の児童・生徒が小学校1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆の作品にいとみ、延べ100点を超える作品が出品されました。

この書き初め展は、作品の優劣を競うものではなく、年初めに筆を手にして書くことを目的にしています。

学校外で多くの地域の方々に見ていただき、学年が上がるごとに作品が変わっていく様子を見ていただければと願っております。

来年度も、是非続けたい行事であると思っております。

地域と共に

非行対策部会

今年も4月29日に原町の本木様の、御斉田でお田植祭が行われました。

9月には登渡神社から神主さんが見えて、イセヒカリという品種の苗を奉納し、豊作と感謝の神事が行われました。

氏子の皆さんの手で、和気あいあいの中、手早く行事の準備が整えられました。

この様な行事に、子ども達もたくさん参加し、地域の行事として長く続くといいなと思いました。

現在では子ども達とかわって行われている行事は盆踊りくらいでしょうか。

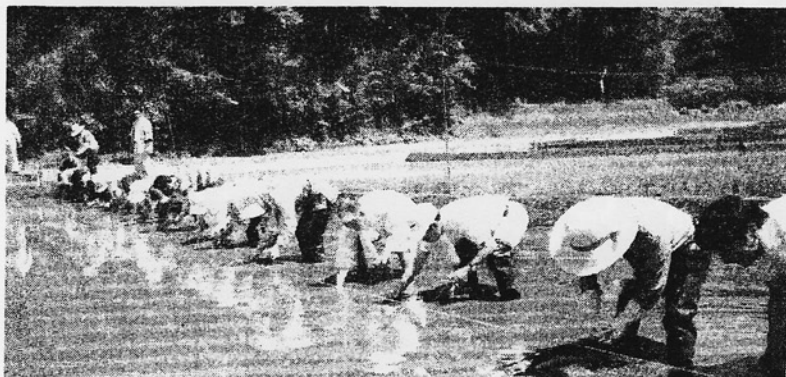
又、2月28日に、PTAと非行対策部との共催で、落語会が開催されました。

例年は、講師をお招きしての講演会を行っていましたが、今年は千葉市出身の落語家の、古今亭菊輔師匠をお招きして落語会を開きました。

人情話「いどの茶碗」に笑った

り、ホロリとしたり、人情の機微に触れることができました。

正直さや人の情の大切さを考える機会ともなりました。この様な心を人々が持つて暮らしていけば、心豊かで安らかさを感じられる地域ができるのではないかと思います。



芝山・成東へ 研修旅行

レクリエーション部会

2月22日(土)に研修旅行を実施しました。酒々井町の飯沼酒造で酒造りの施設見学をしたり、ビデオによりオートメーション化された酒造りの工程の説明を受けました。

続いて、日本で初めてできた航空科学博物館で、大きなエンジンや模型を見学しました。更に芝山町のはにわ博物館や観音教寺を訪問しました。はにわの造形美、豊かさを改めて実感しました。

松尾町で昼食後、松尾町にある佐瀬酒造で昔ながらの酒造りの施設を見学しました。また敷地内にあるレストランでのコンサート(ポップス)をちよつぱり聞きました。

更に、成東町で、いちご狩りを行いました。朱く色づいたいちごは甘く、春の香りと味を堪能しました。

あいにく、小雨の降る中での旅行でしたが、盛り沢山の内容で、県内にも、楽しみながら学べる施設が、まだまだあることを実感しました。

ある日の横断歩道

交通安全対策部会

冬枯れの或る日。下校時。信号交差点に近づいた女生徒の一群、先頭が横断歩道を渡ろうとしたときに赤ランプ。一瞬立ち止まって顔見合せていたが、屈託のない歓声と歌声が湧きおこった。やがて、信号サイクルが変わり青になると、集団は颯爽と横断していった。「よし、よし」この若者たちの前途に幸あれと見送る。

貝塚中学校区内は、交通量の多い幹線道路と、これに交差する生活道路などが交錯して、通学路の交通安全は大きな関心事です。

最近道路の安全施設や要所の規制、歩車分離などその対策や整備も進んでおりますが、一方伝えられる事故の多くは、当事者の不注意という人為的な原因によって起こされているといわれております。

春、新学期を迎えますが、交通安全対策部会も微力ながら通学の安全に対応してゆきたいと考えております。ご協力をお願いします。

明るく安全な地域をめざして

福祉部会

「明るく安全な地域」を主題に貝塚中学校の生徒の皆さんから、標語を募集しました。

様々な事件が起きている昨今、地域全体で「明るく安全な地域」づくりができればと考えています。

入選作品は次の通りです。

○「大丈夫？」

その、言が助け合い

1年 高野 洋渡

「福祉講話」から
優しさ

山本 和加子

私は「健常者」である。だから今まで障害者の気持ちになんかなった事がない。今日、私は障害体験をした。車椅子に座った。とても楽。前に進む。楽しい。段差をこえる。なかなかこえられない。なのに私は笑った。世界中には沢山の障害者がいる。私はその人達にとっても失礼な事をしたのだ。その人達は今までどんなに苦しい日々を送ってきたのだろうか。私には分から

○確認は
平和な町への第一歩

3年 大野 豊

○考えよう！

皆で住みよい 町づくり

3年 丸山 友美

○手をつなぎ

みんなの町を守ろうよ

3年 明星 亜理沙

○譲り合い 助け合い

みんなでつくる明るい地域

3年 細谷 友美恵

ない。しかしきつと「苦しい」「辛い」「死にたい」と思っているだろう。佐久間先生の話にもあった様にいきなり「お前らの様な奴はいなくなつてしまえばいいんだ！」と、言われてしまうこともある。障害者は障害を持ちたくて持った訳ではない。なのにこういう様に言われてしまうのはとてもその人達は傷つくだろう。

私は今出来ること、それは「人に優しくする事」それは健常者も障害者も関係なしに。人の立場を考え、助けてあげたい。

「背中渡り競争」に出場して

桜木小学校

6年2組担任 水野 敬子

桜木小学校では、この夏日本テレビ企画「背中渡り競争」に6年4組全員で出場することが決まった日から毎日練習しました。

朝昼放課後と練習する中、タイムが伸びずけんかしたり、緊張感がなくなつてけがをしたりしました。その度に話し合うことで団結力も高まってきました。夏休みには放映時間に合わせて朝早くの練習もしました。最後まで一人として欠けることなく取り組むことが



できました。

当日、ほかのクラスの子どもたちとその他大勢の人が応援する中競技は始まりました。緊張しすぎている姿に心配したけれど全力を尽くして優勝した子どもたちの顔は輝いていました。

この優勝をきっかけに、やればできるという自信とクラスの団結の大切さを知ることができました。今後もしこのような活動の場をつくっていきたいと思います。

第32次千葉県青少年及び青少年指導者海外派遣事業団に参加して

生の異文化コミュニケーション

が抱える問題

今村 敏昭

青少年を取り巻く問題は、洋の東西を問わず、いじめ、暴力行為、不純異性交遊等の課題に対してそれぞれで国で苦慮している。

ただ、島国であり、ほぼ単一民族といわれている日本と、先住民に加え、移民も多いカナダとはその文化・価値観の相違から、青少年を取り巻く環境には大きな違いが

見て取れる。

小学生は、大人と一緒にでなければ外出できない。留守番もできない等、塾の子や鍵っ子が多い我が国からすると過保護とも思える青少年保護の施策が講じられている。一方、18歳になると、自立して行動しなければならぬ等の厳しい考え方が浸透していることもある。

また、婚姻に関する考え方も、離婚率50%、再婚率80%にもなっているカナダでは、離婚は普通のこととして定着しており、両親の離婚が青少年に与える影響は、日本ほど深刻ではないといえる。

むしろ、民族の違いから来る価値観の相違が呼び起こす問題の方が切実である。異なる文化の衝突は善悪の決着だけでは解決できない問題だからである。

今回のカナダ訪問では多くの事を学んだ。国は違っても、問題を抱える子ども達は、同じ様な症状を見せる。しかし、根底にある原因には、日本では考えられない事情があることも知った。

カナダの事例を咀嚼・整理し、わが子や地域の子ども達の指導に役立つ

てたいと思っているが、「異なった

相手に対して、ありのままに受け入れること」が大切であることを知った。多民族国家のカナダでは、片言の英語を話す外国人にも真摯に耳を傾けるという。自国語をうまく話せない人がいることが普通だからだ。移住した外国人が、カナダが住みやすいと言う理由がここにあると思う。子ども達がそのように思っていて行動してくれる社会が作れたら最高である。

編集後記

新しい学習指導要領と学校完全週五日制が始まった今年度は、学校・家庭・地域をとりまく環境に大きな変化が見られました。

このような流れの中で、貝塚中学校区の育成委員会活動は、様々な分野で着実な成果をあげてきています。

この「育成だより」が、次代を担う子供たちの健全育成に向けた学区小・中学校及び各部会の活動をお知らせする役割を果たせれば幸いです。